



叶え合う支援

どなたでも参加OK

今回は **支援** について  
深掘していきます

# 社会問題 タラレバ 会議

Vol.01

人とのつながりが少しずつ薄れつつある今、誰もが孤独や孤立を感じる可能性があります。それは個人だけの課題ではなく、私たちの暮らしや社会の変化の中で生まれている問題でもあります。暮らしの中のさまざまな悩みや、地域で起きている課題に目を向けながら、人と人がつながり支え合える地域のために、私たちに何ができるでしょうか？

2026 **6/29** 月

19:00 - 21:00 (受付18:30から)

会場

**BIATORA**  
**bistro & brewery**

埼玉県草加市高砂 2丁目12-12



# 社会問題 タラレバ会議

vol. 01

話題提供



高橋 啓太  
たかはし けいた

ケアプロ訪問看護ステーション草加 所長/看護師

救命救急センターで多くの命の最期に立ち会い、「生きるとは何か」を問い続けてきた。その後、ケアプロ訪問看護ステーション足立で“看取り難民を救う”という理念のもと、在宅の現場で実践を重ねる。2024年に草加ステーションを開設し、所長として医療・福祉・介護が連携し合える関係づくりを進めている。日々、病気や障がいのある方々との関わりを通して、スピリチュアルペインの緩和と「その人らしい生」を支える看護を探求している。

ケアプロ訪問看護ステーション草加 地域のこと考える担当  
作業療法士/これからイセエビになる予定のザリガニ



横田 歩美  
よこた あゆみ

0歳～高齢まで対応する、全人類対応型作業療法士。特技は、その人の暮らしや活動の背景を読み解き、怒られる手前のあだ名をつけること。「わたしらしく生きたい」を本気で叶えるべく、病気、障がい、老い、子育てなど、人生の揺らぎを支え合える地域の在り方を日々模索中。最近では、“地域への参加は回復の入口なのではないか”と思いながら、今日も地域をにぎやかしている。

社会問題タラレバ会議は、社会問題を「正しさ」や「専門性」だけで語るのではなく、「こうだったらいいのに」「こんなことできないかな？」という“タラレバ”から考える対話の場です。支援する側・される側、専門職・地域の人など、立場を超えて集まり、それぞれの「得意」や「資源」を持ち寄り、「まちの力」で小さく試せるアイデアや新しい関わり方を考えていきます。完璧な解決策を目指すのではなく、雑談や妄想、おせっかいから生まれる“小さな叶え合い”を大切にします。



中村 麻里  
なかむら まり

社会福祉法人 福祉楽団/地域ケアそうか

1978年生まれ。千葉県出身。特養の相談員として地域連携や福祉避難所対応、虐待・利用料未払いなど多様な現場課題の解決に奔走。「制度や組織の枠を超えて課題を解決する力」が評価され、草加市委託の重層事業相談員と法人のソーシャルワーカーの職種長を併任。党籍35年のチョコミン党员でもある。



おおもり りょうへい  
大森 亮平

●SOCIALSQUARE草加谷塚株式会社ここにある

特技：一発ギャグ



いいだ のぞみ  
飯田 希見

●SOCIALSQUARE草加谷塚

一言：「スクエアの体力担当です」

聞き手

「叶え合う支援事業」

とは、個人や組織・団体、コミュニティなどがつながり合い、地域全体で支え合う関係性をみんなで作っていくためのプロジェクト。「する・される」という一方的な関係性ではなく、お互いの願いや思いを「叶え合う」ような、対話的で創造的なプラットフォームを目指しています。



叶え合う支援

とは？



参加申込はこちらから

先着順となります。定員(60名)に達し次第、受付を締め切らせていただきます。

〈お問合せ〉

tel/048-922-1024 (草加市 福祉政策課 池田)

mail/tepei@hang-over.co.jp

(ハングオーバー株式会社 岩淵)

主催/草加市

企画運営/Soka Fukushi Consortium(SFC)

※詳細は草加市サイトでご確認ください。